

自悠新聞

〒980-6101

仙台市青葉区中央1-3-1 アエル1階
発行所 丸善仙台出版サービスセンター

平成21年(2009)6月 No.77
印刷 東北堂印刷(株)

☎022-264-0151 fax022-264-0112
sd-aer@maruzen.co.jp 編集長 石森浩一

『放浪の画家 横手由男の絵』 出版に思い浮かべること

内海松壽

画家 横手由男さんと
の文通が始まったのは、
彼の死の五年前だから、
さして長いものではない。
けれども大仰な言い
かたになって心苦しいけ
れど、『放浪の画家 横手
由男の絵』の出版には男
の信義がかかっていた。

横手さんとの書簡交換
のはじまりは、『女人観音
考』(油彩)という一枚の
絵に感動したことによ
る。わたしは、一文をし
たためると急ぎ横手さん
宛に投函したことから、
彼との縁が生まれたのだ
った。『山河帰唱』(水墨)
を手に入れてからは、こ
の人はただ者ではない、
才能ある画家に違いない
と確信するにつれ、この
画家の人と作品について
是非書いてみたいとい
う欲望に駆り立てられた。
意を決してその旨を横
手さんに告げたが、彼は
なぜか良いとも悪いとも
言わず、未整理の資料を
ぼつりぼつり送り届けて
くれた。わたしはこれ
で了解を得たものと独り合
点した。

このことがあってから
ほどなく、実は横手さん
が野仏のスケッチ中に脳
梗塞で倒れ、以来病床に
あることを知って愕然と
した。横手さんはしばし
ば鬱状態に陥り病状が
なり悪化していることは
私信で分かった。

うかつだった、これ以上
迷惑をかける訳にはい
かない。けれどもここで
筆を折ってしまったので
は横手さんと交わしたわ
たしの約束は反故になっ
てしまおうではないか。そ
れでは男がすたるとい
うもの、信義は守らねば
ならない。横手さんの訃報
を手にしたのはそれから
間もない翌年(2001
年)の中秋であった。
この本の出版に当って
乗り越えなければならな
い二つの問題があった。
その一つは著作権の問
題である。横手さんの死
後、作品の著作権は息子
息に引き継がれたはずだ
が、肝腎のご子息の住所
がどうしてもつかみかね
た。渋川市役所では息子
息本人の承認なしでは他

人に明かせないと断られ
隣近所もご子息は、とう
の昔渋川を離れているの
で分からないという。そ
うとなれば最後は石森さ
ん(丸善出版サービスセ
ンター)の出番である。
石森さんは「餅は餅屋」
の諺どおり『銀花』『芸術
新潮』に『日貿出版社』
などに連絡を取り、わた
しの本に登場する作品で
わたし自身が実見してい
ない絵の写真には、出版
社の了承を得て、出版社
の名を明記するという条
件で決着した。

問題の第二は横手さん
のアトリエがある渋川市
(群馬県)は八十歳を越
えたわたしにとつて遠
ざることだ。豊富な資料
を収蔵する東善寺(高崎
市倉渕)の住職 村上泰賢
氏や俳人 中里麦外氏(伊
勢崎市)を訪ねるのはそ
う簡単でない。せいぜい
横手さんの三回忌や七回
忌に因んで回顧展を主催
した東善寺に出掛けた
り、前橋市内で中里氏が
主催した遺作展に出席し
てお会いするのが精一杯

であった。出版に漕ぎつ
けるまでにはさまざま
方々にご協力を得たり、
思わぬ親切を受けながら
わたし自身がさ迷い続け
た観が強かった。ほんと
うにお世話様でした。改
めて御礼申し上げます。



『放浪の画家
横手由男の絵』表紙



女人観音考



山河帰唱

M マルエム春秋

次女に二人目の子
どもが生まれる。八
月五日が予定日。来
月の半ば頃には実家
である我が家に出産
準備でやってくるだ
ろう。

五年前の長男誕生
のときのことであ
る。娘が我が家に帰
って来て何日も経た
ない日に、婿のお母さん
から電話をいただいた。
「お世話になります」と
いう挨拶の電話だった。
電話を受けた妻は、自分
の娘が出産で帰ってくる
のだから、私が面倒を見
るのは当然のことだし、
むしろ世話をしたいので
「お世話になります」と
いうお母さんの言葉に何
か複雑な思いがしたと言
う。でも、その心遣いが
嬉しかったそうだ。嫁い
だ家のお母さんが、嫁の
実家に「よろしく」と言
葉を掛けるのは、次女が
嫁ぎ先で可愛がられてい
ることが伝わってきて嬉
しくないはずはないので
あるが、何故か「複雑な
思い」なのである。しか
し、この心遣いがあった
こそ、親戚付き合いが滑
らかに信頼が増して
いくものではないだろう
か。次女の誕生が待ち遠
しい今日この頃である。

丸善仙台アエル店
(☎022-264-0151)
紀伊国屋書店 仙台店
(☎022-308-9211)・
金港堂書店 本店
(☎022-225-6521)
各店舗にて好評発売中。
ISBN 978-4-86080-097-0
A5判 137ページ
2100円(税込み)

アルキーム共和国仮想戦史シリーズ 出版記

野村 潔

『アルキームの風』上巻』を一昨年十月出版してから足掛け3年が過ぎましたが、ミリタリー専門雑誌の書評にも取り上げられ、着実に購読される方が増えている状況は、この大変なご時勢の中で有難く思っております。

特に硬い内容の上巻を買って頂いた方の殆どが引き続き下巻を購入されたことで、企画編集に大きな誤りはなかったと意を強くしております。昨年十一月に同下巻を出版し、引き続き『アルキーム共和国軍用機イラスト集』、『アルキーム共和国戦車イラスト史』を石森自費出版アドバイザの主宰されている自悠工房のお力添えで出版、現在5冊目の『軽火器イラスト史』を制作中です。



アルキーム共和国軍用機イラスト集

読者からの反響も多くあり、日本帝国の失敗の轍を踏まないためにも軍事戦略兵器開発に関する研究の重要性を認識した



アルキームの轟

という若い方や、アルキーム共和国の技術開発方針や作戦における決断は、大変立派で感心するという年配の方、毎回興奮して夜も眠られず考えこんでしまうという方、また鹿児島在住の方からはアルキーム共和国の武器輸送船団が鹿児島湾に到着する状況を想像すると勇躍する思いがあり、市内に翻るアルキーム共和国旗や外出中の水兵の姿を想像して楽しんでいただきたりとご注文をいただいた数多くある企画の制作順をどのようにしようかと再検討したりと、出版活動を通じて広がる人の輪はまことに大

きいものがあると感じております。この間を通じ、石森自費出版アドバイザには各種多岐にわたる助言、自費出版コーナーでの展示、広告等についてもお世話をいただき、本当に感謝しております。

商業出版には売って利益を上げなければならぬという制約があります。が、自費出版は本来自分が良いと思ったことを表現する上で公共の利益に反しない限り制約は無く、売らんがために余計な付加や妥協を行なう必要はありません。自史や書簡集だけでなく研究発表や作品集に最も適した出版形態ではないかと思えます。こうしたことを考えると自費出版活動は大戦後半世紀のたゆまぬ営為によって日本国民が得た三十年間のプラス人生を使う最良の方法の一つといえるのではないのでしょうか。

丸善仙台アエル店
自費出版コーナーにて
好評発売中

丸善創業140周年記念万年筆「檸檬」発売!



丸善は今年で創業百四十周年を迎えました。これを記念して、創業百四十周年記念万年筆「檸檬」を発売いたします。この万年筆は、短編小説『檸檬』と当社のかかわりをモチーフに製作しています。

『檸檬』の作者 梶井基次郎は、大正十三年に東京帝国大学文学部英文科に入学し、同年末、同人誌に「檸檬爆弾」を置いてくるまでの物語りを綴っています。

限定万年筆「檸檬」は、鮮やかな檸檬色のボディとペン先にも檸檬柄の刻印が入った、檸檬を彷彿させる外箱パッケージに、内側には梶井基次郎の直筆原稿(檸檬の習作)も掲載した、特製パッケージです。

手書きの温もりが見直されている時代。大切な方へのお手紙や、お仕事の時にも、是非この機会に 限定万年筆「檸檬」をお求めください。

丸善創業百四十周年記念

限定万年筆「檸檬」

価格：3万9900円(税込み)

仕様：ペン先は14金、サヤ・胴体は樹脂 長さは携帯時146mm

m、使用時163mm 重さは

27.5グラム カートリッジ

ジ・コンバーター両用式 字幅

はM(中字のみ)

発売日：平成21年6月17日

丸善仙台藤崎店 ☎022-221-5001

にてご注文を承っております。

丸善の自費出版

あなたの本を創ってみませんか!

丸善は書店としての経験をいかして自費出版制作のお手伝いをさせていただきます。お気軽にご相談下さい。随時承っております。

☎022-264-0151 携帯 090-5184-0532 (石森)



営業時間
10:00~21:00

日曜祝日は 20:00迄



認定第0014号
石森浩一